

『すべての人が自分らしい生活を送る』をかなえるために」

地域包括ケア推進センター

次長 望月 マリ子

皆さんは広島県の第8期高齢者プランの内容をご存じでしょうか？令和3～5年の3年間に広島県がどんなことに取り組んで、地域で高齢者の生活を支えていくかを表したものです。各市町もそれぞれ同様の計画を策定しています。今年度は2年目なので、それぞれの市町ではすでに9期計画に向けての調査が始まりつつあるところです。皆さんのお住まいの市町がこれからどんな方向に進もうとしているのか、ぜひ興味を持っていただきたいと思えます。

今回は、その計画にのっとり行われている介護予防活動普及展開事業（自立支援型地域ケア個別会議の横展開事業）の広島県アドバイザーの立場で、【指定発言】として「広島県内の介護予防事業・地域ケア会議の現状」をお話しします。一般介護予防事業や短期集中予防サービス（短期集中サービスC）、地域ケア会議推進事業等々、はじめて耳にされる方もおられるかもしれません。今、地域でリハビリテーション専門職の持つ力に熱い視線が送られています。全体の話は佐藤孝臣さんがして下さるので、私は広島県で私たちを取り巻く状況がどんなことになっているのか、地域で何が起きているのかを紹介し、県内でそれぞれの圏域のリーダー的な役割を担ってくれている私たちの仲間たちの思いを代弁させていただこうと思っています。

話は変わりますが、地域包括ケアの根幹には「住み慣れた地域で自分らしい生活を送る」がありますが、現在のようなコロナ感染症などの予測を超えた危機的な状況の中でも、私たちは「自分らしい生活を継続させる」ためにいろんな手立てを考え、マネジメントをしてきていると思います。私自身は「自分らしい生活を送る」ためのさまざまな取り組みは、まさしく作業療法そのものだと感じています。日々それぞれの対象者のしたい作業に向き合っているその皆さんの力を、地域住民の方々にも一緒に伝えていっていただきたいと思っています。